

春に活躍！空気清浄機の種類と選び方

花粉や黄砂、PM2.5はもちろん、ハウスダストなどさまざまなアレルゲンや有害物質、ニオイまで除去できる「空気清浄機」は1年中活躍します。最近では、さまざまなモードが搭載されたモデルも発売されており、多機能化が進んでいます。そこで今回は、空気清浄機の種類や選び方についてご紹介します。

暮らしの情報コーナー
リフォームのヤマシナ商事が、住まいや暮らしに役立つ情報をお届けします。

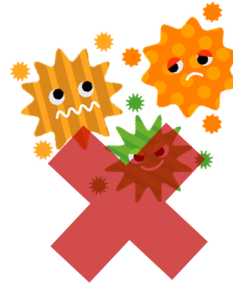
空気清浄機の種類

ファン式

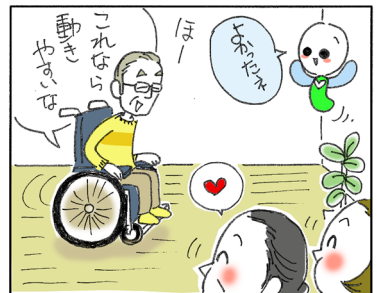
家庭用としてもっともポピュラーなのがファン式。ファンの回転で空気を取り込み、フィルターを通してホコリやニオイを取り除く効果が期待できます。

〈メリット〉ラインナップが豊富なので部屋数や機能などから好みのタイプを選択しやすく、比較的リーズナブルなモデルが多いので複数の部屋に設置したい場合や購入費用を抑えたい場合に最適。

〈デメリット〉定期的なフィルターのメンテナンスや交換が必要。運転音が大きめなので静音モードを搭載したモデルがおすすめです。



やまちゃんに
おまかせ！③



電気(イオン)式

静電気を利用して汚れをキャッチするタイプが電気式の空気清浄機です。

〈メリット〉プラズマの作用でチリやホコリを集じんするため、内部のフィルターが目詰まりしにくく効果も長期間持続。運転音が静かなので赤ちゃんがいる家庭や寝室に設置するなど音が気になる場合におすすめ。

〈デメリット〉ファン式と比べて高価なため、全ての部屋に設置したい場合は予算がかさんでしまう。

POINT リビングなど運転音が気にならない部屋にはファン式、寝室など静かにしたい部屋では電気式と、使い分けると良いでしょう。

空気清浄機の選び方

加湿・除湿機能の有無をチェック

〈加湿機能付き〉空気中の細かいホコリや花粉をキャッチすると同時に、空気の湿度を一定に保つ機能が欲しい場合におすすめ。

乾燥が気になる冬場や、インフルエンザ対策などにも活躍します。

〈除湿機能付き〉の空気清浄機は湿気が多い梅雨時期のジメジメを軽減するほか、洗濯物を部屋干しする際にも便利な機能です。

POINT 加湿器や除湿器と空気清浄機がひとつになっていると省スペースで済みます。

適用畳数をチェック

購入前まず確認！使用する部屋面積の2～3倍のものを選ぶと、より早く空気の汚れを取り除くことができます。

フィルター性能をチェック

フィルター性能は空気清浄機を選ぶうえで最も重要なポイント。特に、PM2.5などの粒子が細かい物質が空気中に舞うのを抑えたい場合には、高い集じん性能を持つフィルターを搭載した製品を選ぶ必要があります。

空気清浄機の中には、高性能フィルタにより、インフルエンザ、ノロなどのウイルスに対して高い除去率を示し、医療や介護施設に導入されている空気清浄機もありますよ。各ご家庭の用途に合った空気清浄機を探してくださいね。

